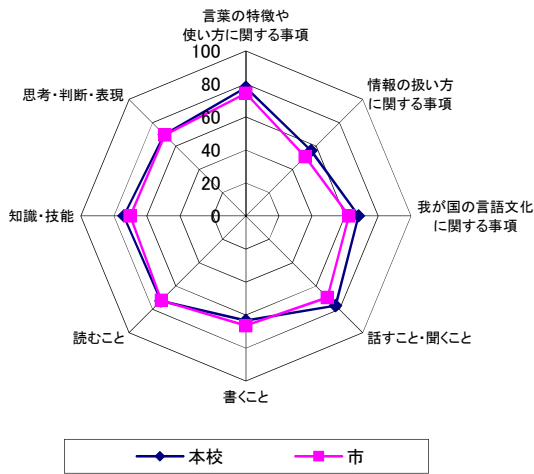


宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.9	74.3	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	55.9	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	68.2	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	76.9	69.9	69.7
	書くこと	63.3	66.4	64.6
	読むこと	72.7	72.3	71.0
観点別	知識・技能	74.0	70.1	70.0
	思考・判断・表現	69.8	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

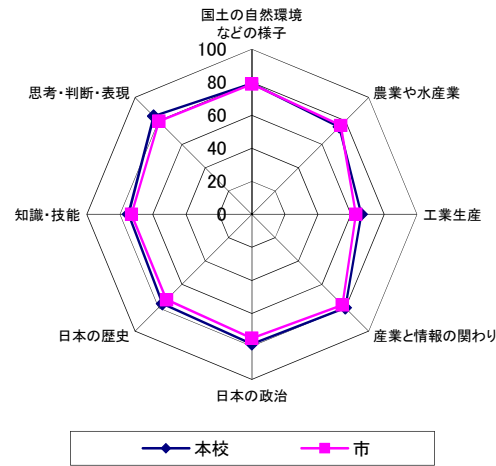
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○領域全体の正答率が77.9%で市の平均を3.6ポイント上回っている。 ○熟語の成り立ちや敬語について正しく理解し使うことができている。 ●5学年の配当漢字は問題によって市の平均を5ポイント以上下回っているものもあった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・敬語の具体的な使用場面や正しい使い方が更に身に付くよう、日常生活の中の機会をとらえて、継続的に指導していく。 ・既習漢字についても折に触れて取り上げ、練習問題に繰り返し取り組ませ、より一層の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○領域全体の正答率が55.9%で市の平均を5ポイント上回っている。	・目的に応じた情報を選び、情報と情報の関係について正しく理解し、文章にまとめることができるような機会を他教科でも増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○領域全体の正答率が68.2%で市の平均を5.8ポイント上回っている。	・新出漢字の学習の際に漢字の由来や特質に触れる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	○領域全体の正答率が76.9%で市の平均を7ポイント上回っている。	・計画的に話し合うことができるように、互いの立場や意図を明確に示せるよう声掛けをし、発表の機会を設ける。 ・日常的に友達の意見や自分と違った意見をメモする習慣がつくように声掛けを行う。
書くこと	●領域全体の正答率は、63.3ポイントで市の平均を3.1ポイント下回っている。	・指定された長さや段落構成などの条件を守って時間内に書くことができるよう身近なテーマで小作文を書き、文章を書き慣れさせていく。 ・教師が意図的に多様な表現を取り上げ、児童が良い表現に気づいたり、触れたりする機会を増やす。
読むこと	○領域全体の正答率が72.7%で市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○登場人物の心情について描写を元に正しく捉えることができている。	・状況・描写を的確に捉え、登場人物の行動を読み取ることができるように読書の機会を増やす。 ・説明文の練習問題に取り組ませ、段落相互の関係や、筆者の考えを正しく理解できるように指導していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	79.3	78.9	75.4
	農業や水産業	74.9	76.1	71.2
	工業生産	66.3	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	80.0	77.6	59.7
	日本の政治	78.5	75.0	79.3
	日本の歴史	76.6	73.1	72.8
観点別	知識・技能	74.8	73.0	71.4
	思考・判断・表現	84.1	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

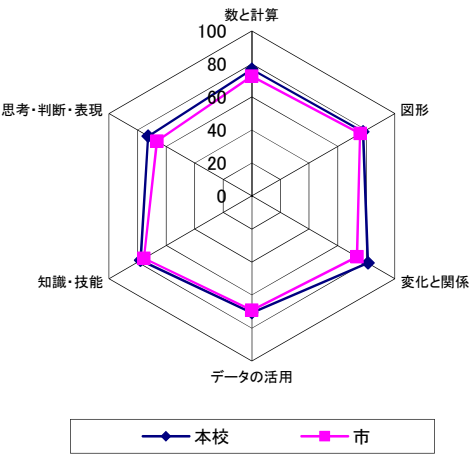
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○自然災害の問題についての正答率は、98.8%で市の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ●天然林と人工林についての問題の平均正答率は、62.4%で市の平均正答率を7.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学習の中で意図的に地図帳を活用することで、地理に関する基礎的な知識の向上を図る。 ・国土や自然環境について身近な問題として捉えられるように、授業内容に応じて身近な教材を有効に活用していく。
農業や水産業	○日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る問題の正答率は84.7%で、市の平均正答率を1.4ポイント上回っている。 ●都道府県の位置の理解を基に、コメの生産量について表を読み取り、白地図にまとめる問題の正答率は56.5%で、市の平均正答率を5.2ポイント下回っている。	・複数の資料を読み取り、それらを関連付けて考える機会を設けていくようにする。
工業生産	○大工場と中小工場の理解を基に、資料を読み取る問題の正答率は、62.4%で市の平均正答率を9.6ポイント上回っている。 ●日本の鉱産資源の輸入について資料を読み取る問題の正答率は、63.5%で、市の平均正答率を1.6ポイント下回っている。	・資料を扱った問題に取り組む機会を設けて、資料を活用する力がさらに身に付くようにしていく。
産業と情報の関わり	○インターネットを利用するときの注意点に関する問題の正答率は91.8%で、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。	・日常生活の中でインターネットで起こる問題の例を意図的に取り上げ、学習したことをもとにその原因や対処法を考えさせる機会を継続して設けていくようにする。
日本の政治	○非核三原則についての問題の正答率は87.1%で、市の平均正答率を7.2ポイント上回っている。	・日本国憲法や日本の政治が自分事として捉えられるように、授業内容に応じて身近な教材を効果的に活用できるようにしていく。
日本の歴史	○弥生時代の村の様子や人々のくらしを捉え証言する問題の正答率は89.4%で、市の平均正答率を11.3ポイント上回っている。 ○武家諸法度の問題の正答率は72.9%で、市の平均正答率を18.5ポイント上回っている。 ●室町の文化についての問題の正答率は63.5%で、市の平均正答率を10.9ポイント下回っている。	・歴史上の出来事が起こった社会背景と、その時代の文化を関連付けられるよう、資料を活用した授業を継続していく。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.7	72.6	73.1
	図形	77.8	75.7	74.7
	変化と関係	81.2	73.6	66.1
	データの活用	70.8	69.2	70.7
観点別	知識・技能	77.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	72.5	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

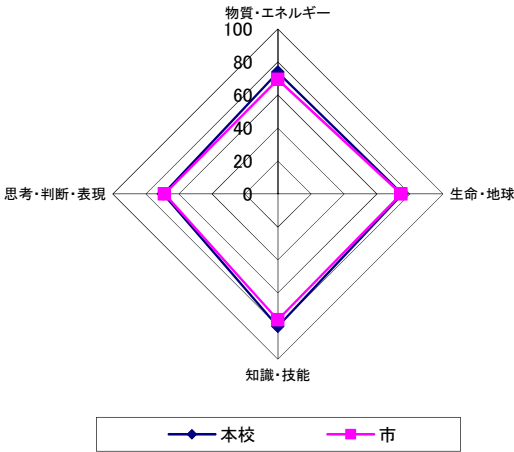
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域全体の正答率は76.7%で、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ○図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をする問題の正答率は85.9%で、市の平均を10.2ポイント上回っている。 ●分数の乗除法の計算技能を問う問題の正答率は、87.1%、84.7%で、市の平均をやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習で基礎基本の定着を図るプリントに取り組み、計算処理の手順を定着させることで、計算処理能力の向上を図る。 ・フォローアップ問題や計算のプリントなどで繰り返し取り組みながら、基本的な計算の技能の定着を図っていく。
図形	○領域全体の正答率は77.8%で、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、正答率が94.1%と、市の平均を12.7ポイント上回っている。 ●線対称な図形の対応する点を見付ける問題の正答率は、市の平均正答率は上回っているものの、54.1%と低い。	・線対称、点対称の性質について、実際に具体物を操作しながら指導することで、知識理解の向上を目指す。 ・必要な情報を書き入れる作業を反復練習させる。
変化と関係	○領域全体の正答率は81.2%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○表から面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察する問題では、正答率が82.4%と、市の平均を9.1ポイント上回っている。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均正答率を11.3ポイント上回っているものの、正答率が68.2%と低かった。	・「速さ」の学習の際に、速度の単位について、意味と状況に関連付けて学習させ、理解を深められるようにする。 ・低学年から単位変換の問題を反復、継続して練習し、技能の向上を図る。
データの活用	○領域全体の正答率は70.8%で、市の平均を1.6ポイント上回っている。 ●代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する問題の正答率は、市の平均をポイント上回っているものの、34.1%と低い。	・「データの活用」の学習では、平均値、中央値、最頻値の用語の定義の定着を図るとともに、活用の場面について考える機会を設ける。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.8	69.3	65.7
	生命・地球	75.3	74.7	77.8
観点別	知識・技能	80.3	76.2	76.4
	思考・判断・表現	69.3	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○知識・技能に関する正答率が高く、学習内容が定着されている。 ○「ふりこのきまり」の実験計画に関する設問の正答率は、本校が71.8%で、市の平均を14ポイント上回っている。 ●「物の燃え方」で、複数の物を比較して考える設問の正答率が市の平均を上回っているものの、43.5%と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・児童が実際に実験を行ったことのある単元は、よく知識が定着されていることから、今後も演示実験による知識の習得だけでなく、体験的に学習する場を多く設定する。 ・実験をする際に、どのような方法でするのか、なぜその実験をするのかなど、実験の目的を明確にした授業を展開していく。 ・実験の測定や記録をする際に、意図的に友達や他のグループとと比較したり、考えを交流させたりすることで、表現力を高めていく。
生命・地球	○「月と太陽」では、月が輝いて見える理由を答える設問に対して、市の平均を8.6ポイント上回った。 ○「生物と環境」では、生物と気体の流れに関する設問の正答率が市の平均を8.8ポイント上回った。 ●「植物のつくりとはたらき」では、植物の葉のでんぷんをつくるはたらきと、日光の関係を調べるための対照実験を行う理由を問う設問の正答率が60.0%と低く、市の平均も12.9ポイント大きく下回った。	・身近にある出来事や実体験をもとにした知識が定着しやすい。今後も、定期的な復習や苦手なところの補習を行い、知識の定着を図っていく。 ・実験や観察の目的を明確にするとともに、必要な言葉を使って簡単に文章化するという活動を日常的に取り入れていく。 ・実験器具の使い方や理科的な用語を復習する機会を設け、知識のさらなる定着を図る。

宇都宮市立上戸祭小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
多様な情報から読み取ったイメージを、絵や図、言葉、タブレット上で表現する力の育成	自分が読み取ったことをノートに書く活動を積極的に取り入れ、児童同士の考えを交流させる時には、自分の考えと比較することで、自分の考えをより具体的にしたり深めたりできるような場を設定している。	第6学年算数大問17「小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算のしかたを考え、説明している。」の正答率が55.3ポイントで、市の平均を6.6ポイント上回った。
児童が見通しを持って学習したり、自力解決に取り組んだりするための導入や授業展開の工夫	児童の知的好奇心を高められるような導入を工夫した授業展開、身近な生活の場面に置き換えられるような学習課題の設定、児童の思考の深化が図れるような発問の工夫を行っている。	「勉強をしていて、おもしろいと思うことがありますか。」に肯定的に回答した児童の割合は、1・2・6年生が8割以上、3・4・5年生は9割以上で、市の平均を5つの学年で上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「多様な情報から読み取ったイメージを、絵や図、言葉、タブレット上で表現する力の育成」に注力してきたことから、算数において自分の考え方を図や言葉で説明する力の高まりが見られた。その一方で、国語においては、目的に応じ、文章と資料とを結び付けて必要な情報を見付けるような問題に課題が見られる。次年度は多教科において、資料から分かることを書き出す活動や、読み取った事実から考えられることを考察する活動を取り入れる。

・「新しく学習したことは、繰り返し練習していますか。」では、市の平均と比べると上回っているものの、肯定的に回答した児童の割合が高くないため、次年度は、宿題の出し方や家庭学習の取り組みについてさらなる工夫を図る。